

びわ湖トラスト親子環境学習講座

～湖岸調査～ 報告書



認定NPO法人 びわ湖トラスト

実施日 : 2021年8月3日(火)
 後援 : 大津市教育委員会
 協賛 : 公益財団法人 平和堂財団
 参加者 : 18組 38名(大人:18名・子供:20名)
 スタッフ : 12名(講師・ボランティアスタッフ含む)

行程

9:20 受付開始
 9:25 開校式
 オリエンテーション
 9:35 生き物についての講義・観察
 10:00 2班に分かれて
 カヌー体験
 生き物調査
 12:15 閉校式



この日は朝から雨が降ったり、止んだり。受付が終わり、いよいよ開校式が終わり2班に分かれてカヌーと生き物調査へ、という頃に台風のような強風と激しい雨が降り、全員そのままテラスで待機。

急遽予定を変更し、全員で生き物調査担当をしてくださった先生の話聞くことに。

元北海道大学の今井先生そして、近畿大学の亀甲先生とそのサポートの大学院生2名が、朝、大宮川で捕えた湖岸の生き物、そして以前に他所の川で採取、保存されたもの・・・ハゼ科の生き物、又マエビ、エタノールで保存されたワカサギの卵、成魚なども説明を聞きながら、興味深く観察。バケツの中にはザリガニもいた。怖くて遠くから眺めるだけの子や、積極的に触り始める子。生き物の生態についてやさしく説明してもらった。





10時前になると寒いほどの風と雨はかなり小雨に変わった。いよいよ予定通り、2班に分かれて1時間ずつ交代でカヌー体験と生き物調査を行う。

【カヌー体験】

ライフジャケットを着ると、オールの使用、カヌーの漕ぎ方や座り方、転覆した時の対処法などを分かりやすく説明していただいた。説明が終わりいざ、出発。順番に乗り込む。

前半のカヌーは雨が止んだばかりだったので、波が荒く漕ぐのが大変だった。若干後半の波の方が穏やかで晴れていたが、2



班とも、同じ向かい風での出艇。皆が『集合場所』という旗をつけたカヌーに付いていく。今回は強風のため、ほとんどの親子が安定するので2人、もしくは3人で1艇のカヌーに乗った。

ヨシ帯の近くにも行った。水が濁っていていつもほど生き物が見ることが出来ず残念だったが、水草などを持ち帰ってくる方もいて楽しそうだった。また後半にカヌーを体験した班は、ヨシのあたりで生き物調査をしている別の班の姿を見ることができた。

やはりカヌーを初めて体験した方が多かったようで、初めは先頭のカヌーに付いて行けずに距離があった方も、しばらくして慣れてくると、素早い方向転換や直進ができるようになり、流されることなく無事に湖岸に戻ることができた。上手に着岸するコツは、勢いよく漕いで砂の上に乗り上げる、だそうだ。岸に戻ってくると、カヌーを引き揚げて元の場所へ。オールを元の場所に置き、ライフジャケットを脱ぐと軽く集まり「ありがとうございました。」と挨拶をした。初めての方でも、もちろん経験者の方も、久しぶりに体験したスタッフも、とても楽しめたカヌー体験だった。





【生き物調査】

まずは水中にいる生き物をタモ（網）でとる方法を2つ教えてもらう。採取方法を聞いてからそれぞれ家族単位でバケツとタモをもらい、琵琶湖へ向かった。

朝からの雨で琵琶湖は濁っていたが、一旦水に入ると、皆興味深く、熱心に水の中に網を入れ、取れたものを確認し、バケツへ入れていた。膝ぐらまで水に入り、先生のアドバイスを受けながら、何度も網で探り、木の根元や水草をかき分け、採集を楽しんだ。



バケツを見て回ると、小さな魚、ザリガニ、タニシ、エビなど。後半の組ではブラックバスの稚魚もいた。

残念ながら中身はなく貝殻だったが、手のひらサイズの大きな貝もあり、驚いた。

ジャンボタニシとその卵も発見。ヨシ帯には何か所も産み付けられた赤い卵の塊があった。この卵がああサイズになるのにどれくらいの時間とエサが必要なのだろう。



他にも湖岸に卓球のピン球を小さくしたようなものを発見。すでに割れて、中身はなくなっていたが、卵のようだった。（OPALのスタッフの方の話だとスッポンの卵らしく、何かが捕食してしまったらしい。）

観察のため、捕獲終了を告げる。皆湖岸から上がる時は子供も、そして大人も名残惜しそうに渋々、という感じで戻って来た。

テラスに戻り、採集したものを透明の容器に入れ、観察。疑問に思ったことを先生に質問しては説明を受けたり、容器を様々な方向から観察したり。

遠くからこわごわと眺めていた子供が自分で捕った生き物を間近で興味深く観察し、先生の話に聞き入っていた。

1時間ほどだったが、みな楽しいひと時を過ごした。



観察後、希望者は採集した生き物をビニール袋に入れ、それぞれの家に持ち帰った。スタッフも家にタニシとヨシノボリを連れて帰り、家の水槽で引き続き観察している。

今回は例年のない悪天候で、吹き付ける風が寒いほどだったが、30分ほど待機してからは雨が降ることもなく、むしろいつもより涼しく、過ごしやすい環境で講座を受けることができた。

毎年実施していると、生き物の生態の変化もある。刻々と変わっていく今のびわ湖の状態をぜひ自分の目で見て、体感してほしい。そしてこれからのびわ湖について考えてほしい。